

塩 島 大 (しおじま だい)

昭和9年（1934）4月長野県北安曇郡池田町に生まれる。松本深志高等学校を経て34年東京大学農学部卒業。同年建設省入省、計画局施設課を振り出しに大阪府土木部、総理府近畿圏整備本部、首都圏整備委員会等を経て56年9月建設省公園緑地課長。57年8月退官。



この間一貫して都市及び地方計画とともに公園緑地事業の効果的効率的推進に力を注いだ。公園整備の促進にはその目標を明示し、財源の裏付けのある整備計画が必順との強い認識から、47年都市公園等整備緊急措置法の成立に尽力し公園関係者の永年の課題であった五ヵ年計画を企画立案し閣議決定に至らしめた。公園の必要量を国民の生活意識の変化と利用実態から理論的に算出するとともに都市公園の種別も児童公園から広域公園にいたるまで必要にされる機能に対応したものを新設した。レクリエーション活動の広域化を見通した大規模な公園を国直轄で整備するため国営公園制度、公害の防止緩和のため緩衝緑地の整備を、公害防止事業団事業とする制度、地方公共団体の技術者不足に対処するため住宅都市整備公

伊 藤 英 昌
(建設省都市緑地対策室長)

団の受託施工制度等現在の公園関係事業の根幹となる諸制度の創設に尽力した。また、都市公園の整備が地域開発に及ぼす効果を定量的に把握する研究により56年母校より学位を得、母校や明治大学で講義を受けもつなど研究や人材の育成にも幅広い足跡を残している。

58年第37年衆議院議員選挙に長野四区より出馬、最高点にて当選大蔵委員会、災害対策特別委員会で活躍した。60年6月自由民主党の花と緑の国際博覧会開催促進議員連盟の事務局長に就任国際博の誘致開催準備に心血を注いだ。

彼は又、人、酒をこよなく愛し、深夜まで酒を酌み交しながら読論することもしばしばであった。交流の幅も広く、建設関係のみならず経済人から宗教人まで、彼の支援者、ファンは各界各層にわたっていた。とくにすぐやかな顔立ちもあり、女性票も多かったという。

昼夜の別なく精力的に活動したが、不幸にして病魔に犯され志半ばにし60年9月惜しまれながら世を去り故郷である「アルプスあづみの」の地に永眠している。死の直前まで、公園関係者が力を合わせ努力していくよう念じていたという。